

# 令和6年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会

## 第1回まちづくり部会 記録

日時：令和6年8月20日（火）  
午後2時00分～3時30分  
場所：刈谷市役所 604会議室

### 出席者

団体名・役職等	氏名
刈谷市民ボランティア活動センター センター長	米田 正寛
刈谷市自治連合会	大野 裕史
刈谷市小中学校長会	細川 圭子
一般社団法人まちづくり支援センター 代表理事	塚本 裕章
文化工房かりや 代表	久保田富士子
一般公募	岡 由香
一般公募	水鳥 幸子
市民活動部長	宮田 孝裕

### 事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部市民協働課	協働推進監兼市民協働課長	渡部 貴美子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼協働推進係長	加藤 史彦
市民活動部市民協働課	主事	和田 佑佳
市民活動部市民協働課	主事	前川 和奏
NPO法人ボランタリーネイバース	副理事長・調査研究部長	三島 知斗世
NPO法人ボランタリーネイバース	理事・事務局長	遠山 涼子

## 1 開会・あいさつ

- ・定刻になり、市民協働課課長補佐兼協働推進係長が開会を宣した後、資料確認を行った。（略）
- ・部会長あいさつの後、議事に移った。

## 2 議題

### (1)まちづくりコーディネーターの活動状況について

■【資料1—1、1—2】を提示し、まちづくりコーディネーター（以下、まちコ）について事務局が説明

#### ●まちコの活動報告

- ・まちコ19名を6件の事業に派遣（依頼元：自治会、市民協働課など）。
- ・「築地地区長との意見交換」では、地区長からの依頼をきっかけにまちコと顔合わせ会を行い、まちコ活動、地域活動について情報を共有した。次回8月30日に自治会活動へのまちコの協力の仕方を探る予定。
- ・「協働のまつり場」では、公園緑地課が担当する公園愛護会活動をテーマに話し合い、広報の仕方等について地域で活動する立場から活発な意見交換・提案が行われた。

#### ●まちコ交流会

- ・【第1回】6月22日（土）15時15分～17時30分 会場：刈谷市民ボランティア活動センター
- ・参加者20名のうち、まちコ10名、残りは一般の方や市まちづくり推進課2名などの参加であった。
- ・まちコ有志により運営し、まちコの活動事例紹介、参加者の関心のあるまちづくりについて、知り合い・つ

ながるワーク等の開催。

- ・【第2回】11月4日(月・祝)13時30分～ 会場：刈谷市民ボランティア活動センター
- ・第1回をベースにまちコと参加者が活動を報告しあう「まちコ活動収穫祭」を予定する。

### ●つなぎの学び舎・リカレント まちづくりステップアップ講座

- ・学び舎修了生やまちコを含むまちづくり活動実践者を対象とした現場の実践力を高める目的の講座。
  - ・1～3回開催済、全6回講座。うち、2回はまちコ限定企画。
  - ・【第1回】4月20日(土)場のデザインを学び、第1回まちコ交流会の企画づくりを行った。参加6名。
  - ・【第2回】5月25日(土)ヒアリング・インタビュー技術の学習と演習。参加11名。
  - ・【第3回】6月29日(土)編集ツール「canva」を用いたチラシ作成講座。参加6名。大好評であった。
- ※まちコ養成講座は、昨年度より、基礎編・実践編の2か年にわたる仕組みから、1年の受講で修了するよう再編した。隔年開催で、今年度は行わず来年度開講予定。

### ■質問・意見交換

【地区長との意見交換のきっかけ】

部会長：築地は新たな住民が増えている地区である。地区長がまちコに興味を持ったきっかけは？

事務局：地区長が昨年度まちコ交流会に参加されており、地区長から依頼を受けて意見交換が実現した。8月30日に2回目を予定する。ゆっくり地道に進めるサポートができるとうい。

部会長：地域には積み上げてきた歴史がある。変化を望む意見、望まない意見に分かれ調整が難しい。

事務局：次回は地区長以外の方にも同席いただけるとよい。

委員：どんな点に興味を持たれたのか？他の地区への展開を考える際に参考にしたい。

事務局：きっかけとなったのは、地区長の勉強会。東刈谷地区防災イベントにまちコが参画していると知り、興味を持たれた。地区内組織からの相談に、地区長がすべて答えるという体制が回らなくなっているとのこと。役割を整理して、地区長がやるべきことに注力でき、かつ地区全員で活動に取り組める体制になるよう、時間をかけて取り組んでいきたい。

事務局：地区のまちコにとっては、地域に役立てる喜びにつながっている。また、まちコ自らの希望もあり、客観性を保つため、地区以外のまちコにも参加してもらっている。

【まちコくらの近況】

委員：解決したい課題について、身近なことから将来のことまでざっくばらんに話をする座談会形式で開催している。参加者が主体性を持って、自分たちができることを軸に話が進められている。外部参加も広げていきたいが、広報の面で課題を感じる。

委員：これまでまちコ相談会として相談対応の蓄積があり、困ったことがあればみんなで知恵を絞りあって活動している。ゼミから引き継いだ技術的な学びの場としても開催していきたい。

部会長：参加者の反応はいかがか？

委員：まちコの参加が多く、情報交換が中心。先日は、第1回まちコ交流会参加者の相談に応じた。

事務局：テーマ登録のQRコードを交流会で告知したり、つながるねットに掲載している。

部会長：定期的開催することで、認知度が広がる。市民ボランティア活動センターの「ぼらっち。カフェ」では、10名程度でざっくばらんに、顔をあわせて共感して聞くことを大切にしている。テーマは持ち寄り型で課題はすぐに解決しないが、いろいろな人の知恵が引き出せるとよい。

【協働のまつり場】

部会長：公園愛護会のない公園が3分の1あり、南部に多い。子ども会等の減少も影響し、清掃の担い手がなく地域で管理することが難しい状況にある。まつり場の参加者から公園活用の提案が出され、公園緑地課の事業の中で間口を広げていただけるとよい。提案の実現を願う。

## 【地域と子どもの関わり】

委員：小学校と地域の関わりについて現在どのような状況か。

委員：地域学校協働活動は市内全 21 校で実施。呼びかけると、地域の人々が家庭科の授業を見てくださり、子どもとの関わりが生まれている。また、いろいろな教科で地域へ出かける学習がある。家庭科では地域で何ができるかをテーマに学ぶなど、地域への愛着を育む教育が取り組まれている。

部会長：授業をきっかけに地域へ入ることで、子どもたちが地域の活動に参加するようになっていくとよい。千葉県松戸市では、高校生が自治会役員を務める事例がある。小さなころから地域の行事に参加し、地域の中でアイデアを出すことに抵抗がない環境だったそうだ。小さなころから経験することは大事だとあらためて思った。

## (2) 共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討

### ■【資料2】を提示し、協議事項について事務局が説明

#### (資料2/共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討)

・昨年度に引き続いて、共存・協働によって、各自治会等で取り組まれるとよいこと、課題が具体化されている地域をモデルとした取組の検討を本部会における協議の方針とする。

#### (ヒアリングの概要/参考：令和5年度第3回推進委員会資料)

・元気な地域応援交付金、まちコの派遣活動等で課題解決の方策検討に取り組む5地区の実践からヒアリングを通じてモデルとなる「共存・協働のまちづくり」のテーマを抽出。モデル地区を選定し、まちコによる伴走支援も含めた後方支援に取り組む。モデル活動を振り返り、レベルアップと、他地区への展開を図る。  
・長期的に少しずつ進め、地域が主体となってやりたい、真似したい取組をサポートする。

#### (東刈谷地区ヒアリングの結果報告)

・東刈谷地区を対象に、取り組みのプロセスに着目してヒアリングを行った。

#### ●テーマ1「防災イベントで、助け合えるつながりをつくる」

ポイント1) 地域特性を考慮した防災活動を考える

・地区の特性は「高層マンションも多い新興住宅地」「子育て世代が多い」「引っ越してきた人の間に自治会が浸透していない」「近所づきあいが希薄」等である。

ポイント2) 五感が満足し、人が集まるお祭り型のイベントに

・防災訓練だけでは人は集まらない。盆踊りに大勢人が集まる様子から、楽しく笑顔になれる場に人が集まる。五感(「目で見て」「耳で聞いて」「触って」「においを嗅いで」「味わって»)が満足するお祭り型の防災イベントを開催。

ポイント3) コミュニケーションが生まれる運営を工夫する

・顔見知りになれる流れができるよう、ステージで多世代交流がうまれる演目を企画。  
・スタッフの配置は1時間ごとに持ち場を変える等の配置をすることで、色々な人と知り合いになれる。

ポイント4) 体験し、楽しみながらスキルが身につく自主防災訓練

ポイント5) ウィンウィンウィンで協力を呼びかける

・企業のPRの場、かつ来場者が体験できるプログラムを出展してもらうことで、イベントを盛り上げることができ来場者も楽しみが増える。

ポイント6) 小回りの利く組織+若い力で、共助力を高める

・災害時に機能する体制とするため、自主防災会を12に分けて再編。今年度、顔合わせを実施。  
・防災イベント開催では、地元中学校に呼びかけた。企画からの参画も促し「自分の意思で参加し、防災について自分の頭で考える」機会となることに加え、将来まちを支える子どもたちを育み、共助力の向上を目指す。

#### (自治会で新しい取り組みを立ち上げる時のヒント)

・データや数字で伝えることや、自分で決めず問いかけて、みんなで決めることが取組のコツ。

●テーマ2「会計業務を整理する、事務員を雇用する」

- ・会計業務の整理を諮り、2か月に一度会計監査を行い信頼できる体制を構築。
- ・自治会で事務員を雇用し、市民館に配置。相談や問い合わせにも対応し、地区役員の負担軽減となる。
- ・事務員は、一年の流れが頭に入っており、1-2年で交代する地区役員にとって心強い助言役となっている。

●テーマ3「地域課題（要望）情報提供・改善活動のフロー整理」

- ・地域の危険箇所などの課題について、市への要望と結果の報告までの流れをフロー図に整理。
- ・要望した状況や結果が提案者に報告される仕組みで、要望の進捗状況が把握できる他、地区として要望することのメリットが実感できる。
- ・写真付き資料を作成して説明する等、住民の同意をつくりやすくする工夫がある。

●共存・協働で取り組めるとよいこと

- ・役員・組長の会議は現役世代の仕事が終わった後参加できる時間帯に設定し、参加の機会が確保されている。
- ・共存・協働で取り組めそうなことや他地区へ展開できる点、取組のアイデアなどご意見いただきたい。

■質問・意見交換

【お祭り型の防災イベント】

委員：西部地区は規模が小さいが、自主防災会を立ち上げ、20名程の参加を得た。月1回会合をし、年2回防災訓練を行う。安否確認の訓練では、班長が担当地区を回って確認しているが、始めたころは15%程度の参加率であったが60%まで伸びている。他地区では9割程の参加率があると聞き、目指したい。班長を対象とした体験活動を6月に行っている。班長は交代するため、同じ内容でも繰り返すことで約10年後にはほとんどの世帯に経験者がいることになる。ゲームよりも楽しくないと子どもは集まらない。大府市で開いた公民館祭りは千人程が参加。自分が子どものころ楽しかった行事を、自分の子どもにも体験させたいと思って参加してくれた。

委員：防災訓練は炊き出しや消火訓練だけなので、子どもたちも参加しない。楽しいと思わないと参加しないのはその通りで、基本は楽しむことだと思う。

委員：世帯調査は、自治会に加入していない人も対象とした。防災は加入未加入に関わらず必須であり、未加入でも掃除には参加されているので、線引きは難しい。

事務局：避難所は、加入未加入に関わらず利用できる。

委員：元刈谷の自治会加入率は低い。活動が活発な層と二極化している。地区自主防災会の下部組織に「元町防災会」がある。消防車が入ってこられない地域のため、地震の発生時に火事を防ぐ目的で活動を始めた。訓練に人を集めるため、子どもを対象にした遊びを用意したところ、自治会に加入していない人も含めて多くの参加があった。ただ、イベントを加えた防災訓練は、運営側の負担が大きくなり、継続が難しい。

部会長：イベントは取り組みやすいテーマであるが、人の交代や地域の状況が変わる中での継続は課題である。先日開催された小垣江の防災講座に学校の先生が参加され、地域防災の活動を通して、子どもたちを安全に誘導しようと心掛けている。学校では先生たちの関わりを奨励されているのか？

委員：そこまではしていない。

【楽しみながら活動するコツ】

委員：やる側が楽しいと、参加する側も楽しくなる。

部会長：小垣江の子ども会は、市子連から外れて試行錯誤をしながら運営している。足りないのは会員とお金。地域から補助はなく資金獲得のために公園愛護会活動に取り組むこととした。自治会の活動を面白くする活動ができればよい。

自治会の組織そのものを変えていかなければいけない。地区の成り立ちにより異なるため、一概に言えないが、早い段階で手を打つ必要がある。

#### 【他地区への展開手法】

委員：東刈谷地区は、記録とマニュアルがしっかりできており、資料が整理して作られているため、やりやすい。地区長の性格もあるが事務員の活用の成果である。

委員：ヒアリングの記録がよくまとまっている。全地区を対象に取り組んではどうか。各地区で選んだテーマをもとに、まちコがヒアリングを行い、それをもとに整理し情報提供する。まちコと地域の関わりも自然に生まれ、かつ成功事例を提供できれば各地区で受け入れもしやすい。資料があることで他地域でもスムーズに真似できる。毎年、続けていける活動になるのではないかな。

#### 【地区への参加のしくみをつくる】

委員：テーマと抽出されたポイントや、実行した結果も分かるよいレポートができた。他地区へ展開する際には、地区の負担を減らすためにこういった形で、みなさんでやりましょうと呼びかけを続けていけば、デジタル活用も広がっていくだろう。その地区で大事にしたいことも守られつつ、若い人が加わり運営がスムーズになるといった“地区レポート”としての活用がイメージできた。新たなメンバーが加わるにはしくみとすることが必要。中学生ボランティアには地区から「参加賞」を渡して受験等での本人のメリットも示したり、本業の学業に差しさわりのないよう学校へフォローしたりできるとよい。人々の想いを中心に組織を作っていけたら地区もよい方向になる。最新を取り入れつつ、昔ながらのいいものも守れるようになる。

#### 【女性の活躍をしくみにする】

委員：東刈谷地区は公民館長を務めるのが女性で、市内で一人である。一般に、自主防災会は女性が3分の1だが、半数は女性で避難所運営等がされるのが望ましい。西部地区は組長6名のうち、2名は女性とした。このようなルールを設けて守っていけるとよい。資源回収など力仕事の場合は、男性の力が必要な場面もあるが。

委員：西部では資源回収の収益は各会で分担するため、分別作業もみんなで行っており役割分担も上手いっている。一方で、役員をやらなくてすむよう子どもが大きくなると辞めてしまう状況も聞かれる。

委員：地区長は男性がやるものだと思い込んでいたが、会の中に決まりがあると女性でもなろうと思う人が増えてくる。規則を設けて表に出すことで、女性が増えるきっかけになる。

部会長：突破口になる人が必要。小垣江の神社は女性が氏子を担い、御朱印等のアイデアが出され多くの人を訪れている。

委員：大府市で自治会長を務める女性から、防災マップを折りたたむと二度と取り出さないから、ラミネートしてA3用紙にしたら冷蔵庫に貼っていつでも見れるよとアドバイスをいただいた。

#### 【若い世代の参加をしくみにする】

部会長：中学生が加わると良い。防災の面では力になる。中学生が声をかけると周囲の大人も動く。

委員：組織の新陳代謝のために、中学生・高校生ボランティアが加わるルールとすること。その子たちが楽しい、やりたいことを尊重する文化が根付いたら、若い人が入るのが当然と社会も変わる。実現しづらいアイデアも、中学生の意見だからなんとかしよまい！と実現を後押しするのが大人の役割だと意識も変わるかもしれない。高校生・大学生の声を大事にする流れができれば、女性や若い人が参加すると会議のあり方も変わる。「友たちのお父さんかっこいいこと言ってたね」「僕のアイデアだよ」と家で話したり。子ども会や地区の活動の他に活動によって、みんなで作りに上げていく互助の関わりが生まれ、若い人たちがこれから住む地区になっていくのだから。

委員：中高生が組長になった場合、謝金は払うことができるのか。

委員：支払はできる。金額によっては社会保障の負担額などが問題となるかもしれない。

部会長：小さな単位から試していけるとよい。そこまでの金額にはならないだろう。

委員：わんさか祭りの片付けに参加した中学生たちがボランティア手帳を持っていた。後片付けなど大人の手伝いだけではなく、組織の運営に携われるとやる気にもなり考え方も変わって良い。学業、部活、習い事など難しい面もあるが、運営から企画、実施に関わっていただけると良い。

委員：公園緑地課主催ワークショップでは中学生からよい意見が出ていた。団体の活動でも中学校へ参加を依頼することがある。市民活動や地域活動に関わることで、将来まちづくりに携わりやすくなるのではないか。子ども時代から参加することは大事である。

事務局：子どもが家に帰って話すことも大事。子どもから自主防災会の活動に参加したよと話すと、親への伝わり方も変わる。

#### 【事務員の雇用】

委員：負担の部分までカバーするのはよいアイデア。負担を理由に、役員を断る人は多い。財政力がある地域では参考にできる。

委員：東刈谷地区は規模が大きいので財政力があり、以前から雇用しているが、西部地区は新たにできた市の補助金を活用して、週1回土曜日5時間以内で雇った。ホームページの運用や世帯調査を入力できるようになったり、回覧板の情報をウェブサイトに掲載したりした。

委員：いろんな情報がスマホ等で回覧板以外でも知られるとよい。

部会長：廃品回収で資金を得て雇用する地区もある。工夫次第で、住民の協力を得て体制を作れるとよい。

委員：雇用した方は地元の人か？人材探しはなかなか見つからない。

委員：地元の方に限り募集した。

#### 【会計業務の流れのしくみ化】

部会長：引継ぎ書や収支決算事務のマニュアルは他地区で展開できるのではないかな。

委員：税理士の指導があるのはよい。代々受け継がれたルールによって運営されているところもある。

委員：しくみ化することで、ゆるやかにルールを徹底していけるとよい。

#### 【情報を必要な人へ届けるしかけ】

部会長：班や組で解決できないことがあれば地区へ、地区でできなければ市全体へと、それぞれの機能があり、物事が解決するのが自治の力である。それができるとわかると自治会に入ることが必要と理解できる。しくみの中で物事が解決できることが知られていないから行政へ連絡してしまう。問題解決の仕方も含めて周知しなければならない。災害ボランティアの活動で目にしたのは、災害ボランティアに連絡すると手伝ってもらえることを知らない人が大勢いたこと。知ってもらうために絶えず情報を届けたり、ウェブサイトだけでは受け取れない人もいるため、伝える場が必要だと考える。

委員：デジタルと紙ベースと必要な人によって分ける。安否確認もかねて手渡ししたら班長の負担も減る。

部会長：防災訓練に参加するとポイントがつくなど、しかけがあるとよい。若い人の意見を聞いて取り組むとうまくいく。若い人の意見は若い人の参加にもつながりやすい。

## 3 今後の予定

### ■まちづくりん部会

第2回 令和7年1月21日(火) 14時00分～15時30分 刈谷市役所701会議室

### ■推進委員会

第1回 令和6年10月16日(水) 13時30分～15時00分 刈谷市役所

以上